

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：37101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370330

研究課題名(和文) アイデンティティ探求を超えてモダニズムへ--ミュアとブラウンのバラッド的視点--

研究課題名(英文) Literary Balladry of Muir and Brown: Modernism beyond the Pursuit of Scottish Identity

研究代表者

中島 久代 (Nakashima, Hisayo)

九州共立大学・経済学部・教授

研究者番号：90227778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：ミュアについては、ハイネからの精神的影響を加えて彼にとってのバラッドの意味を再考し、さらに「うたびとトマス」の模倣詩とスコットランドを題材とした詩の比較考察によって、彼の帰属意識のゆらぎとスコティッシュ・アイデンティティへの根本的懐疑を明らかにした。この考察は学位論文「スコットランドのバラッド詩とナショナル・アイデンティティ」中に含めた。

ブラウンについては、バラッド詩に登場する「詩人の声」に着目した。それは詩人の反資本主義や現代のスコットランド社会批判を表す手法であり、ブラウンのバラッド詩にはアイデンティティ探求を超えたモダニズム的傾向が示されていることをまとめているところである。

研究成果の概要(英文)：Regarding Edwin Muir: Heine's psychological influence on Muir was discussed and his notion of traditional balladry was reconsidered. In addition, some enigmatic factors of "The Enchanted Knight" and two other poems on Scotland were analyzed. These observations clarified his unstable identity and his fundamental skepticism regarding the nation of Scotland. The discussion mentioned here is included in my dissertation titled "Scottish Balladry and National Identity."

Regarding George Mackay Brown: My attention was focused on the poet's voice in his literary ballads. It often suggests his anti-capitalistic stance or his views against modern Scottish society. The modernistic technique of inserting the poet's own voice goes beyond his predecessors' pursuit of national identity in their ballad poems. This discussion will be embodied in a separate paper.

研究分野：スコットランド詩、特にスコットランドの伝承バラッドを模倣したバラッド詩

キーワード：英米文学 スコットランド詩 バラッド詩 Edwin Muir George Mackay Brown ナショナル・アイデンティティ モダニズム

## 1. 研究開始当初の背景

平成 22-24 年度科学研究費補助金基盤研究 (C) 採択課題「近現代のスコットランド詩におけるナショナル・アイデンティティとバラッド詩の関わり」によって、以下の成果を得た。

(1) バラッド詩の諸特色を視点として、18 世紀初頭から 19 世紀におけるバラッド詩の趨勢をまとめたこと。

(2) 中英語の時代から詩作品に描かれた、共同体のシンボルとしての“Thomas Rhymer” はスコティッシュ・アイデンティティ自体の多義性を露呈していること。また、スコットランド詩人によるナショナル・アイデンティティの表現自体も、Walter Scott と John Davidson では変質し、時代の変化における揺らぎが顕著であること。

しかし、以下の点は未解決として残った。

(3) 20 世紀の詩人 Edwin Muir はバラッドに深く傾倒し現代詩への警鐘としてバラッド的精神を評価したが、ナショナル・アイデンティティを批判する創作姿勢は他のバラッド詩人たちと一線を画している。ミュアとブラウンのバラッド的視点とバラッド詩はナショナル・アイデンティティの多義性とどのように関わるのか。

この論点を考察にあたり、シンポジウム「George Mackay Brown とバラッド - intertextual reading の試み -」(山田修・山中光義・川畑彰・入江和子、日本バラッド協会第 2 回会合、2009 年 3 月 28 日、愛知工業大学本山キャンパス) から着想を得て、ナショナル・アイデンティティの多義性というテーマで、オークニー出身の現代詩人ミュアとブラウンのバラッド的視点とモダニズムというテーマを設定した。

## 2. 研究の目的

(1) 一連の科研費による採択課題においては、バラッド詩(Literary Ballads)の伝承バラッド(Traditional Ballads)からの模倣と逸脱の諸論点を明らかにし、英詩という文学ジャンル中に「バラッド詩」の分野を確立することを全体構想として目指している。

(2) 全体構想の中での本研究の目的は、ミュアとブラウンのバラッド詩が、18・19 世紀のスコットランドのバラッド詩が果たしてきたナショナル・アイデンティティの探求に連なり、同時に、アイデンティティの探求を超えた、20 世紀のスコットランド文学のモダニズムに歩調を合わせる創作活動であったことを明らかにすることにある。

(3) 前採択課題「近現代のスコットランド詩におけるナショナル・アイデンティティとバ

ラッド詩の関わり」による成果と本課題による成果を合わせて、学位論文を完成させることも研究期間内の目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) ミュアの伝承バラッド評価の諸相を再考察し、ミュアのバラッド詩に見られるアイデンティティ観をスコットランド文学の先人たちと比較考察する。ミュアの視点を 20 世紀初頭のスコットランド文学のモダニズムの趨勢と比較検討する。

(2) ブラウンのバラッド詩の諸相を分析し、ブラウンがミュアから引き継いだバラッド的特色を考察する。

(3) 二人の現代スコットランド詩人のバラッド詩がナショナル・アイデンティティへの懐疑・超越を示すことを作品から検証し、彼らのバラッド詩がモダニズムへと向かっていることの可能性を考察する。

## 4. 研究成果

### (1) 主要成果

2. の研究の目的(3) で述べたように、本研究においては、前採択課題による成果と本課題による成果を合わせて、学位論文を完成させることも主要な目的であった。以下に、研究成果としての学位論文の概要を記す。本課題による成果は第 III 章第 2 節となる。

論文タイトルは“Scottish Balladry and National Identity”(「スコットランドのバラッド詩とナショナル・アイデンティティ」)

第 I 章「英国バラッド詩の系譜とスコットのゴシシズム」においては、19 世紀のスコットランド・バラッド詩を議論する前提として、第 1 節では 18 世紀初頭から 19 世紀の英国バラッド詩の全体像を俯瞰し、19 世紀全体の特質を提示した上で、スコット編纂の *Minstrelsy of the Scottish Border* が背負うアイデンティティ擁護の姿勢について論じた。第 2 節では、19 世紀バラッド詩の出発点を形成したスコットについて、バラッド詩人としての出発点は Thomas Percy に影響を受けたドイツ詩人 Gottfried August Bürger のゴシック・バラッド詩“Lenore”の翻訳“William and Helen”に始まるが、スコットにとってのゴシシズムは郷土精神の表現となっていることを論じた。

第 II 章「デイヴィッドソンのスコティッシュ・アイデンティティへの反発と回帰」においては、第 1 節で“A Ballad in Blank Verse”および“Ayrshire Jock”を中心として、ペルソナの語りからデイヴィッドソンの故郷に対する反発と愛着の両面性を読み解

き、アイデンティティのゆらぎの背後にある19世紀スコットランド文化の退潮とその時代の詩の特色を論じた。第2節では、デイヴィッドソンをバラッド詩創作へ導いた時代と地域の環境をまとめ、彼の作品に顕著なアイロニー、パロディ、孤高のヒーローという独自性を作品から論じ、生涯最後のバラッド詩となった“A Runnable Stag”では、スコットの「ウィリアムとヘレン」に顕著な言葉の音の効果と同じような効果音が使われていることを指摘し、郷土の先人スコットへのデイヴィッドソンの反発と回帰をバラッド詩から論じた。

第III章「うたびとトマスとスコティッシュ・アイデンティティのゆらぎ」において、第1節では「うたびとトマス」を‘nation’として想像されるスコットランドの表象として位置づけ、伝承バラッドを題材としたスコットのバラッド詩、そのスコットのバラッド詩の模倣であると宣言されたデイヴィッドソンのバラッド詩を比較し、郷土のプライドの擁護としての表象「うたびとトマス」は、デイヴィッドソンでは不安感を煽るゴシシズムの表象に変質していることを指摘した。さらに、スコットも *Minstrelsy* 頭注ですでに気付いていたように、うたびとトマスは中世よりスコットランド擁護とイングランド擁護の多義性もつ存在として描かれており、トマスという表象自体にアイデンティティのゆらぎが存在することを指摘した。第2節では、20世紀のミュアに引き注がれたうたびとトマスは、John Keats が “La Belle Dame sans Merci” に描いた「苦悶するトマス」の末裔であること、ロマン派の変質という過程を経たトマス像の背景には、ミュア自身がかかえる「半ばスコットランド人」という帰属意識のゆらぎとそのための祖国批判の姿勢があることを論じた。

以上、19世紀のスコットランドのバラッド詩が、スコティッシュ・アイデンティティの抱える両面性とゆらぎという性質を一様に表現しているという事実を指摘し、同時に、スコットランドのバラッド詩人たちにとってのアイデンティティの表現とは、先人の作品によって一旦は形成されたスコティッシュ・アイデンティティを絶えず変質させるといった創造的批判行為と理解されることを明らかにした。

ミュアのバラッド詩について、論文 “The Enchanted Knight” and Muir’s Identity Consciousness of ‘Half-a-Scot’ ” を学内紀要で発表した。ミュアは伝承バラッド評価を介して現代詩批判を行い、20世紀スコットランド文学およびバラッド詩研究において象徴的な詩人・批評家である。しかしながら、彼自身のバラッド詩「魅入られた騎士」(1937)の曖昧さは、ミュアの明快で痛烈なスコットランドのバラッドの擁護の姿勢と際立った対照をなし

ている。本論文においては、‘nation’ に對するミュアの両面価値的な態度が「半ばスコットランド人」というアイデンティティ意識から生み出されたものであることを、「魅入られた騎士」とスコットランドを題材とした他の詩作品との比較検討から論じた。

## (2) 成果を取りまとめ中の点

研究成果の概要に先述したように、ブラウンについては、複数のバラッド詩に登場する「詩人の声」に着目し、そのモダニズム的な手法が反資本主義、または現代社会批判の声として、スコットランドに対する根本的懐疑を表現していることを分析し、学位論文とは別途にまとめている途中である。

## (3) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

主要成果については、国内外において、18世紀のバラッド詩についての本格的な先行研究書は、M. Yamanaka, *The Twilight of the British Literary Ballad in the Eighteenth Century* (2001) であるが、本課題の遂行によって完成した論文「スコットランドのバラッド詩とナショナル・アイデンティティ」は、19世紀のバラッド詩研究について、国内外のさきがけとなる成果である。

2. 研究の目的(1)に述べたように、本研究課題を含めた全体構想として、バラッド詩という分野の確立を目指すという全体構想に鑑み、上記(1)および(2)の直接の研究成果に加えて、以下の、その他のバラッド研究等活動も全体構想達成の有効な一助となってインパクトを高めたと考えられる。

(a) *The Illustrated World of Mother Goose Poetry* (中島・宮原・伊藤・三木・木田 編注、陣内 イラスト、英光社、2014) を刊行し、作品の解説においてはバラッドおよびバラッド詩との関連を積極的に記述した。

(b) 『イギリス文化事典』(川成洋編、丸善出版、2014) において、第13章「スコットランド」中の「バラッド - 現代に継承される文化遺産」の項を担当し、現代社会とバラッド文学との関わりを中心に記述した。

(c) 電子新版『新 全訳チャイルド・バラッド 第3巻』(中島・山中・岩本 制作、Kindle版、2014) では、音羽書房鶴見書店から刊行した第3巻の完売の対応策として電子版を作成し、バラッド文化・文学の社会への普及に努めた。

(d) バラッド詩データベース「英国バラッド詩アーカイブ」(中島・山中監修、<http://literaryballadarchive.com>) は2011年のデータ部分の完成後も継続的に拡充を

行い、バラッド研究の基礎資料を広く内外に提供している。

#### (4) 今後の展望

4. 研究成果(2)で述べたように、ブラウンのバラッド詩に関する研究はまとめを行っている最中であり、2016年度中のできるだけ早急に成果の公表を行う予定である。

研究成果(1)で概要を述べた学位論文について、一連の科学研究費補助金の採択の成果として、来年度の刊行を目指している。

本研究課題の遂行と並行して、平成27年度より、科研採択課題「バラッド文化とメディア：18・19世紀のバラッド・ソング・物語詩の出版を中心に」(基盤研究B(一般)、平成27-30年度、課題番号：15A03188、研究代表者：帝京大学准教授 三木菜緒美)の研究分担者として、バラッド・ソング・物語詩などのいわゆる口承文化の18世紀から19世紀における出版印刷物が、イングランド・スコットランド・アイルランドの各地域で社会にどのような影響を与えたのかについての包括的な研究に取り組んでいる。

このテーマは本研究課題を社会の趨勢と関連付けて発展させた内容である。20世紀後半から、紙媒体からインターネットへと急速に変化した各種メディアと、バラッドおよびバラッド詩がどう関わっているのかを今後も継続して検証することは、文化と社会の相関関係の研究として現代社会に意義のある方向性を持つと確信する。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

##### [学位論文](計1件)

Hisayo Nakashima, "Scottish Balladry and National Identity", Diss. Kyushu U, 2015, 1-211.

##### [雑誌論文](計1件)

Hisayo Nakashima, "The Enchanted Knight" and Muir's Identity Consciousness of 'Half-a-Scot'", *Journal of Kyusyu Kyoritsu University Research Institute*, No. 8, 2015, 123-33.

##### [その他]

##### (共著)(計1件)

中島久代, 「バラッド - 現代に継承される文化遺産」, 『イギリス文化事典』(編集委員長川成洋, 丸善出版, 2014), 636-37.

##### (電子書籍編纂)(計1件)

電子新版『新 全訳チャイルド・バラッド 第3巻』(中島久代・山中・岩本 制作, Kindle版, 2014).

##### (教科書)(計1件)

*The Illustrated World of Mother Goose Poetry* (中島久代・宮原・伊藤・三木・木田 編注, 陣内 イラスト, 英光社, 2014).

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者(単独)

中島 久代 (NAKASHIMA HISAYO)  
九州共立大学・経済学部・教授  
研究者番号：90227778

##### (2) 研究分担者

なし

##### (3) 連携研究者

なし